

No.60



野外炊事(加西市立北条小学校)

兵庫県立

南但黑自然多次

HYŌGO KENRITU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKŌ (Nature Education Center)

国際的校への国命る無法と願い



兵庫県立南但馬自然学校

校長山田卓三

1 はじめに

県立南但馬自然学校にお世話に県立南但馬自然学校にお世話に県立南祖馬自然学校の存在意義を再認識する必要があると思います。全国に先駆け5泊6日(現在はす。全国に先駆け5泊6日(現在はちまった兵庫県の画期的な事業も25年目となります。平成23年3月11日の地震と津波、それに伴う原発の放り能漏れという自然と文明の大災害は見舞われ、現在もそのつめ痕が残されています。このような時期に、されています。このような時期に、されています。このような時期に、されています。このような時期に、されています。このような時期に、されています。このような時期に、自然や文明についる事業を表しています。

直接体験の重要性

ています。ネコは、スノコの上を器代です。次の基礎体験の段階は、食化です。次の基礎体験の段階は、食べる、作るなどの縄文、弥生の体験、べる、作るなどの縄文、弥生の体験、さらに近代のものづくりなど科学技では、作るなどの縄文、弥生の体験、でも接体験が必要です。直接体験の第一義的意味は、有意な原体験の第一義的意味は、有意な

です。を落としてうまく歩けないというのを落としてうまく歩けないというの態で体験させただけだと、隙間に足歩く直接体験をせず箱車に載せた状用に歩きますが、生後スノコの上を

構成する力を練るのが主眼である」、である。そのと、述べています。 続いて、「既成らものを注ぎ込むのではなく、新した、述べています。 続いて、「既成を、述べています。 続いて、「既成をなる。背負って川を渡るのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、学ばせるのではなく、



「ただ、人の描いた絵を鑑賞させるだけでない。自分自身を描かせるのだけである。理解の真底には体得がなけ性について述べています。体験はマイナス体験を避けがちですが、光の理解には影が、安全には体得がなけして命の大切さには死の学習が大切さには死の学習が大切さには死の学習が大切さには死の学習が大切さいた絵を鑑賞させるです。

3 体験の評価

こそ、目には見えなくても有用のも ある。無用とされるものの方にむし ことに違いないが、人間の知恵で推 書中「人間世論」で説かれている、有 用の用」です。これは、「荘子」の だけでは評価の対象になりません。 記憶のテストなので、こうした体験 ことが無くても、 ものです。一見無用に見えることに ろ、大用(真の用)がある。という その有用などは取るに足らぬもので うか。もう一つ上の立場から見れば、 用(役に立つ)ということは大事な ちます。体験は「荘子」にある「無 しかし、この体験はその後必ず役立 われています。 の以上に効用があるという意味で使 し量られる有用が、本当の有用かど なります。多くのテストは、知識や る」と言います。確かに実物を見た やTVでの知識があれば「知ってい 実体験がなくても、本 知っていることに

用の用」だと思います。容易にできかも知れませんが、これこそが「無にも受験にも直接的には有用でない自然学校での体験は、教科の成績

です。「無用の用」の体験を尊重したいもの役に立つものを求めがちですが、この役に立つものを求めがちですが、このること、目先の実用的なもの、すぐに

おわりに

4

人間の生きる力の基盤は、体力(身体と精神的なストレス耐性)、意欲(原店は飢え渇き、環境の悪化)、感性(他と精神的なストレス耐性)、意欲(原です。考える力は、学業だけで身に付くものではありません。昆虫を捕まえたり飼育したりするいか、長く飼育するにはどうしたら良いか、など、筋肉と脳の連携をない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、どうしたら捕まない遊びの過程で、、考えたり試行の事業には、体力(身体と精神的なストレス耐性)、意性(他者理解)、表表には、大力の基盤は、体力(身体と精神的なストレス耐性)、意欲(原体と精神的なストレス耐性)、意味(原義など、表表に、大力の基盤は、体力(身体と精神の生きる力の基盤は、体力(身体と精神の生きる力の基盤は、体力(身体と精神的なストレス耐性)、

自然学校は、準備から始まり、共に 自然学校は、準備から始まり、共に 自然学校は、準備から始まり、共に 自然学校は、準備から始まり、共に 自然学校は、準備から始まり、共に 自然学校は、準備から始ます。 計画とそのねらいは柔軟で弾力性 す。 計画とそのねらいは柔軟で弾力性 す。 計画とそのねらいは柔軟で弾力性 であるものにし、その評価は長い眼で のあるものにし、その評価は長い眼で のあるものにし、その評価は長い限で のあるものにし、その評価は長い限で もたちが主体的に自然と触れ合ったりもたちが主体的に自然と触れ合ったり もたちが主体的に自然と触れ合ったり を育む活動へとつながるものと確信し さいます。

アクティビティ紹介

竹田城跡登山 ~天空の城をめざして~

竹田城跡登山は、人気のある活動で、平成22年度は、53グループ(連合での実施校があるため、グループ数で表記)中19グループ、平成23年度は、48グループ中17グループが実施している実績があります。本号では、その活動の概要を紹介します。

ねらい

- ・仲間と一緒に登山することで、互いに助け合いながら困難に 立ち向かう態度を育成する。
- ・地域の人々と触れ合い、地域の歴史や文化に触れる。

○ 所用時間等

- ・4~5時間程度は必要です。
- ・駅裏登山道までの距離が約4km、登山道は約0.8kmです。
- 活動例
 - ・城跡散策や天守台からの眺望を楽しむ。
 - ・技術指導員による歴史講話を聞き、甲冑試着や石垣調査をする。
 - ・南但馬自然学校へ鏡、手旗で合図を送る。
 - ・南但馬自然学校に向けて大声で叫ぶ。(条件がよければ、大屋根広場まで声が届きます。)
 - ・竹田の町並みを利用してウォークラリーをする。

○ 実施上の留意点

- ・南但馬自然学校から竹田までの道路は大型車の交通量が多いため、交通安全に注意をする。
- ・城跡には柵がないため、城跡の端に近づかないようにし、身を乗り出さないよう安全指導をする。
- ・長距離を歩いて登山するため、必要に応じてお茶等の水分確保をしておく。
- ・頂上に上がればトイレがないため、虎臥城公園、IR 竹田駅で事前にトイレをすませておく。

全国一の山城遺跡 国史跡「竹田城跡」

竹田城跡は、天守台を中央に南千畳・北千畳・花屋敷が放射線状に配され、城の築かれている山全体が、虎が臥せているように見えることから「虎臥城(とらふすじょう・こがじょう)」とも呼ばれています。標高 353.7 mの山頂に位置する竹田城跡は、嘉吉年間(1441-43 年)に但馬の守護大名・山名宗全が基礎を築いたとされ、太田垣氏が5代にわたって城主となりましたが、織田信長の命による秀吉の但馬征伐で天正8年(1580年)に落城。最後の城主・赤松広秀が豪壮な石積みの城郭を整備したと言われます。縄張りの規模は南北400 m、東西100 mにおよび、完存する石垣遺構としては全国屈指のもので、平成18年には日本城郭協会により「日本100 名城」に選定されました。自然石を巧みに配置した近江穴太衆による石垣は、400年を経た今でも当時の威容を誇っています。また、竹田城跡周辺では秋から冬にかけてのよく晴れた早朝に朝霧が発生し、雲海に包まれた竹田城跡は、まさに天空に浮かぶ城を思わせ、この幻想的な風景を一目見ようとたくさんの人々が訪れます。 (朝来市ホームページより抜粋)



円山川を渡り竹田の町へ





技術指導員による解説と石垣調査



虎臥城公園付近で休憩



南但馬自然学校まで届くか?皆の大声



天空の城 竹田城跡

いよいよ登山道



城下町を展望しながらの昼食 (文責 主任指導主事 戸田 康夫)

子どもの自然体験活動の大切さについて 者の関わり方で成果が変わり 財団法人



尼崎市立美方高原自然の家 日本アウトワード・バウンド協会

所 長 田 中 誉 人

る大学生リーダーも、自然学校の時 私の勤める美方高原自然の家を訪れ え、その第二世代が自然学校を体験 を体験した子どもはもう30歳を超 する時代へと進もうとしています。 績を積み上げてきました。自然学校 てきた自然学校も、四半世紀近い実 兵庫県で、昭和63年より実施され

ちへ与える影響は非常に 学校の5日間が子どもた 動をはじめたという方も ものが大好きになって活 に関わったリーダーに対 多くいることから、自然 するあこがれや自然その 大きいと感じます。

きな時間の流れの中で変 わる子どもの成長や、大 体験の中で目に見えて変 携わってきました。自然 りずっと自然体験活動に 私自身も、学生時代よ

> というものを学びました。森の中で 頃の記憶を思い出してみると、アリ 道なき道を歩き、川の流れに逆らっ 議を考え、時には昆虫を分解して命 の行列を何時間も見て生き物の不思 喜びに魅せられています。子どもの 化し続ける自然の不思議を発見する て登ることで自然の大きな力の強さ と、一緒に冒険

自然体験活動 頼を感じると共 験をさせてくれ じたものです。 する友だちへ信 たと言っても過 決めた貴重な体 は、私の一生を いトキメキを感 に何とも言えな の星の輝きの中 の寂しさや、夜 に、森の夕暮れ

> でしょう。 クトに子どもの心に響 う大きな舞台を使って あることは間違いない きな成長のチャンスで き、その子の一生を左 体験したことがダイレ 短い期間は、 然学校の5日間という 右するかもしれない大 言ではありません。 自然とい

の育成」がありますねらいに「生きる力 が、この生きる力の根 しかし、自然学校の

同して分析を3年間行った結果、い もたちに調査を実施し、大学等と共 ているのではと疑問を感じていま そのものの「質」の変化が起き始め 声も聞かれるようになり、自然学校 然体験や自然が嫌いになったという す。それだけでなく、自然学校で自 が最近多くなってきたと感じていま に弱い子どもや大学生、20代の大人 向かって行動しようとする力が非常 底にある判断力や自ら考えることへ くつかの原因が見え始めました。 べく美方高原自然の家を訪れる子ど す。そこで、私はこの疑問を追及す

ことに熱中し、短時間でよりスムー ズに進行できることに精力を費やし 供」している事実です。指導者は楽 どもに対する活動を「一方的に提 しく安全なプログラムを作り上げる その原因の一つは、指導者側が子



ちの「楽しかった」 動は、当然レールか ムーズな自然体験活 ルに乗ったようなス れません。このレー まっているのかもし という声だけに満足 ています。子どもた い方法を考え提供し とって何も苦労しな 膳立てし、子どもに えると大人が全てお ています。見方を変 惑わされてし

もは、自ら考え行動することはしな に向かって進みます。この積み重ね とってより短時間に快適なゴール」 を作りなおしたいと考えています。 中し、生き生きと「自らの意志」で くなるのは当然のことです。今こ えられることに慣れてしまった子ど 作ってしまっていると考えます。与 いにし、生きる力をなくす」現象を が本来の目的とは裏腹な「自然を嫌 遊びまわる本来の自然体験活動の場 る大きな時間や営みの中で遊びに熱 そ、自然という人間が活かされてい 々の感覚は否定され、「指導者に ら外れた子どもたち

生きる力を伸ばすことを最優先に考 然体験活動」を指導者側が見直し、 つの提案をさせていただきます。 えた活動にしていくために、次の3 私は、今までの「出来上がった自

「ともに遊ぶ感性を 持つこと

楽しみ、自身の心から湧き上がる するのではなく、目の前の自然か で持つ知識や経験から教えようと ぼうと考えましょう。自分の今ま 分から動く喜び」を作り出してい 豊かさに気づき、「やる気」や「自 つなぐ言葉が信頼を生み出し、同 ら直接感じ、プログラムを一緒に じ体験の共有と共感から人間的な 言葉で伝えることで子どもたちは 「共感」していきます。心と心を 体験させようではなく一緒に遊



ツリーイング

「待つこと」

変わりなく、活かせる機会 感が生まれてきます。 自分が決めた行動には責任 を持ちましょう。子どもも 動することに「待つ勇気 がないだけと考えていま 及び精神的な元々の能力は く、子どもが自ら気づき行 行動を指示するのではな そこでのねらいや効率的な 整えることに重点を置き、 す。自然体験する「場」を 子どもは、今も昔も身体



林業体験

危険回避ではなく 危険予知」

2

の内で子どもを管理するのではな 処能力を高め、危険を予知できる 時、安全管理という言葉で逃げな てあげましょう。 く、子どもが挑戦する機会を作っ 力を取り戻す努力をし、自分の手 失ってしまった自然に対応する能 能力を高めてきます。大人自身が じる経験の積み重ねが学ぶ力と対 機会を奪います。小さな危険を感 れば、子どもが「危険」と感じる いでください。危険を回避し続け 子どもの活動の安全面を考える



シャワークライミング

ませんが、この気づいていることを とであり、今さらと感じたかもしれ 本当に実践してこそプロと言えま る方ならもう誰しも気づいているこ 以上の3つの提案は、指導に関わ

に作っていきましょう。 より良い自然体験活動の場を、 子どもたちの将来の成長のため、 一緒



『総合的な学習の時間』 における自然学校に向けての事前指導の充実

~ 姫路市立糸引小学校の取組より~

やものの考え方を身に付け、問題の時間数は減少したものの、「学び方 ちの「育てたい力」をより明確にし 協同的に取り組む態度を育て、自己 解決や探究活動に主体的、創造的、 等との関連で、3時間から2時間と 的な学習の時間」は「外国語活動」 なってきています。 ら、その充実を試みることが重要に でのカリキュラムづくりは子どもた ていません。「総合的な学習の時間」 にする」という本来の趣旨は変わっ の生き方を考えることができるよう の新学習指導要領において、「 導要領が全面実施されました。今回 て、これまでの実践を土台としなが 平成23年度より小学校の新学習指

立糸引小学校の取組について、紹介深いものにしようとしている姫路市 ることで、子どもたちの学びをより もちろん、その事前指導を充実させ を創ろう!」とし、「自然学校」は 習の時間」のテーマを、「自然学校 ている小学校も少なくありません。 テーマとして、自然学校を位置づけ 総合的な学習の時間」の1学期のまた、本県においても、5年生の ここでは、 1学期の「総合的な学

動の多くに、下記のような体験学 糸引小学校の5年生では、学習活 糸引小学校5年生の学びのサイクル

もたちの意識や行 ています。 動の変容をねらっ とによって、子ど る」というプロセ り入れています。 スを積み重ねるこ 動でまたやってみ として積極的に取 習法のサイクルを この「やってみ 考え、次の活 ふりかえる中

この「体験」の積 本番までに「学び ねらいもあります。 方を学ぶ」という

次はこうし』 (分かる)

へとつながっていくのです。 み重ねが、子どもたちの真の 「経験

必要な3つのS 自然学校本番をむかえるために

3

の意識付けを行っています。 で実施する自然学校に向け、必要な 。 3つのS」を示し、子どもたちへ 糸引小学校では、7月上旬に本校

○SELF(自分・仲間)

ンジしたいことは何かについて考え いことは何か、仲間とともにチャレ 自分自身にとってチャレンジした

ふりかえる (何が起こっていた?)

学びのサイクル

やってみる (体験する)

考える (なぜそうなったの?)

りの中で自然学校に向けて、現時点ように取り組まれました。ふりかえ での自分自身の課題を明確にさせ 相手のこと、チームのことを考える PAを通して、自分自身のこと、 (略称PA) (注1) の活用

being(ビーイング)(注2)

ておきます。

(中)「仲間を思いやり、協力する あきらめない」

【人まかせ】 (*人型に書かれた言葉より抜粋)

学習していく。 カヤック、カヌー」について詳しく の中での遊び」「円山川、カッター 「但馬の生き物」「朝来市」「自然

前講座』で、「隠れ家づくり」を行う ために必要なロープワークを学ぶ。

事前学習での取組

プロジェクトアドベンチャー

ました。 雰囲気、規範について気づかせどもたちに安心して取り組める と」を書き込ませることで、 型の外に「なくしていきたいこ るために大切にしたこと」、 る「一人一人が安心して活動す 人型の中に子どもたちが考え 子

(外)「仲間はずれ」「勝手な行動

(学習)

にはなくしていきたいことなどが書き込には自分たちの決めたルールなどが、外▶「being」(模造紙に書かれた人型の中

まれている。)

○SK-LL(技術) 南但馬自然学校の職員による『出

ヘリウムリング (注3)

グループの中でどんなことが起試行錯誤する中で、自分たちのていません。子どもたち自身が こっているかに気づいていきま る以外、基本的には手助けをし 教師は、課題とルールを伝え (5月17日)



【子どもたちのふりかえりより】 最初、失敗を何度もしてみんな イライラしていた。けど、

ことなどが話し合えた。 ワークがよくなって、言いたい ムをしていくとだんだんチーム

今日の活動をして、自分だけで がすごいんだなと気づいた。 は何もできないと感じた。仲間 (Rさん) (Yさん)

前にそれぞれにめあてを設定さ どもたちにはチャレンジさせる クジャムでの反省をふまえ、子 パイプライン(注4)(5月31日) ヘリウムリング・トラフィッ 取り組ませました。

(子どもたちの設定した課題より)

自分から案を出してみたい。を無視せずに聞く。(Sさん チームの人の言ってくれたこと イライラしないようにして、 伝える。 分の言いたいことをしっかりと (Sさん) (Kさん)

ができています。 分と向き合いながら取り組むこと し、子どもたちは今回のPAを自 このように前回の反省を生か (Yさん)

れ家づ

隠

(子どもたちのふりかえりより)

たから、このパイプラインが成しもみんなも声をかけ合っていにあきらめませんでした。わた 最初は全然前に進まなくて、 言ってくれたから、前回みたいなが「もう一回がんばろう」と あ」と思ったりしたけど、みん 功したのだと思います。

まあまあ満足できたけど、

う!」とか、励ます言葉を言っ 言ったり、あわててしまったりはチームのみんなにえらそうに チームのメンバーが「集中しよ かけたと思いました。だけど、 してしまったので、少し迷惑を

場となるように指導されています。 こと大切さ」を、子どもたちに実感 さ」、そして「自分自身と向き合う このように「仲間と向き合う大切 きました。 てくれたので、 自然学校がその実践の あきらめずにで (Rさん)

ロープワーク実習(6月15日)本校職員の『出前講座』による

(2)

的にかかわることができるととも 然学校での隠れ家づくりに、主体 前指導により、子どもたちは、自 の結び方を実習しました。この事特に巻き結び、角しばりの2種類 ワークのスキル(技術)を学び、 隠れ家づくりに欠かせないロープ ることで、子どもたちは、事前に 本校の『出前講座』を活用す

くりの とがで 使うこ 有効に 時間を りまし きるよ

(3)調べ学習についての発表会

Ŗ. かれて自然学かれて自然学 び」「円山川、の中での遊来市」「自然 カッター、カ 子どもたち 「但馬の

一杯調べ、お互いに自分の選んだちは、本番の自然学校に向け、精調べ学習を行いました。子どもた できたそうです。 テーマについて発表し合うことが 校についての

5

ら6日(金)までの5日間、本校に子どもたちは、7月2日(月)か を意欲的に取り組みました。子ど 3つのSを生かし、いろいろな活動 て自然学校を実施しました。そして、



にしていどを考して、 方の の の を 事 前 指 ばと思い ただけれ

る」ため を学ばす が方 もたちに

> れた文献 【今回の事前指導で、 糸引小学校が参考にさ

[Outdoor Facilitation Handbook] 『グループのちからを生かす』 田中裕幸 著(プレイスタイム、2005)

プロジェクトアドベンチャージャパン 著 (C.S.L. 学習評価研究所、2005)

(注1) プロジェクトアドベンチャ (略称PA)

育の一つとして普及してきた。主に学校教育 とするところに、PAの教育的効果がある。 の中で育ってきた。アドベンチャーの持って ブログラムを通して自尊感情を高めていこう いる要素を取り入れてプログラムされ、その 1970年代にアメリカで誕生し、冒険教

の人型を縁取るなど)、その絵の中に、自分 互いに、妨げる要素を取り払うように努力す 側には、それを妨げるものを記入していく。 たちが決めたルールを記入していく。形の外 しい絵を描き(誰かに横たわってもらい、 ることによって、互いの信頼関係を深めてい くという手法。 模造紙などにグループを象徴するにふさわ (注2) being (ビーイング)

れている状態で、フラフープを下に降ろして 題を解決していく手法。 いく。コミュニケーションを図りながら、課 (注3) ヘリウムリング グループの一人一人の指がフラフープに触

動させる。次に、パイプとパイプが触れない 前に動きながら、パイプをつなぎ合わせて移 ルフボールをUの字のパイプに乗せ、床に落 ようにして実施することで、互いの人間関係 とさないようにして、バケツに入れる。必ず (注4) パイプライン Uの字になったパイプを一人一人持ち、ゴ

(文責 主任指導主事 山 根 伸治



南但馬自然学校 圆 飽

兵庫県立南但馬自然学校

增 田 克 也

がら飛ぶチョウが、 字に保った羽のブルー(写真 やっぱりそうだ!」浅いV 風にもてあそば 慌てて望遠鏡を覗くと、 「もしかしてゼフィル 複雑な軌道を描きな 葉にとまりま れる木の葉 遠くウリ

ように、

ス?」

た。

ダカエデの

西風の精 と言われるほど羽の色が美しいものが多く、 ミドリシジミ類の総称です。この仲間は ①)が見え隠れしています。 あるチョウでもあります。 ゼフィルスとは、 ^{*}ゼフィロス、が由来となった、 ギリシャ神話の

″森の宝石〟 森林に棲む

大変人気

「もっと近くで見たい…」するとどうでしょう、

くれました。 マアジサイの葉にとまっ から崖下に向かって茂る、か、サッと飛び立ち私の足 フィルスに願い サッと飛び立ち私の足元 が通じたのでしょう、ゼ ヤ

シジミは、 ましたが、 リシジミ (写真②) スはオスのジョウザンミド 小さなシッポ、このゼフィル その後、 ヌタリックブルーの羽に 羽を広げると約4m、美し ジョウザンミドリ ヤマアジサイを離 15分近くが経過し です。

http://www.shizengakko.jp/

本校ホームページ゛自然のページ゛

より抜

写真① 空中戦の末、 きく傷つき(写真④) てきました。 にもつれ合っ 戦いを終えた彼の右羽は、 ついに侵入者を追い出し見張り台 7 います り、 写真3

ると、2頭が上になり下にな

時にぐるぐる回転しては複雑

(写真③)。

1分ほどの激

L

へ戻

妖精ゼフィルスに野性の逞しさ 視を続けています。 張りに視線を向け、 を感じた瞬間でした。 何事もなかったように縄 美しい森の ひたすら監 ましたが



れることなく、 は、繁殖のために設けた縄動かずにいます。「この場所 ル発進! 止まらぬ早さでスクラン と思ったその瞬間、 張りの見張り台なのだろう_ すっ飛んで行った先に目を 葉の上でじ 目にも うと

護るゼフィルスの気 たいと思います。 分に浸っていただき 縄張りを懸命に 粋 改 計修会のお知うせ

写真⑥

白 然 学 校 講 巫 (指導者入門)

受講形態

研修内容

日派于汉明		
	目 的	自然学校の趣旨や指導者の役割を理解すると ともに、野外体験活動等の実習を通して、指 導者としての資質能力を高める。
	期 日	平成24年8月28日(火)~8月30日(木) 2泊3日
	対 象 者	大学生、一般県民、県下の公立学校教員(高等学校10年経験者研修として受講可)その他自然学校に関心のある者
	募集定員	30 名
	経 費	6,500円(全日程参加の場合)
	申込方法	「自然学校講座申込書」にて、実施日の2週 間前までに直接本校に申し込む。(FAX、 Eメール可)

<u>(5)</u>

をご覧いただい

て、

先にある景色

(写真

んにも、彼の視線の

それではみなさ

全日程参加を原則とするが、1日又は講座単 位の受講も可能とする。

28 日 (火)

講義「兵庫県の自然学校と体験活動について」 実習【アクティビティ(隠れ家づくり)体験】 【キャンプファイヤー指導の基礎基本】 演習 (先輩に学ぶ)

29日 (水)

講義・演習「自然学校・野外活動における リスクマネジメント」 実習【アクティビティ(サイクリング)体験】

講義・演習「プログラムデザイン」

30日(木) 実習【野外炊事指導の基礎基本】 振り返り

南但馬自然学校だより「どんぐり」Na 60 ●平成 24 年 7 月 ●兵庫県立南但馬自然学校発行

- ●〒 669-5134 兵庫県朝来市山東町迫間字原 189 TEL(079)676-4730 FAX(079)676-4008
- URL http://www.shizengakko.jp/ E-mail mtajimashizen@pref.hyogo.lg.jp



24 教 P 2-015A4

植物油のみ使用した、環境にやさしいインキです